

獨協大学 ニュース

DOKKYO UNIVERSITY
NEWS

11

2021

VOL.474



特集

コロナ禍で始めたことは？

 DOKKYO UNIVERSITY

コロナ禍で始めたこととは？

今号では、コロナ禍で新たなことにチャレンジしている獨大生を取材！
新しい生活様式が定着しつつある今日この頃、
コロナ禍じゃなければ出会えなかったかもしれない趣味をご紹介します。
何気なく始めたことが、一生を変えることも？

取材担当：外国語学部交流文化学科 2年 柿沼侑、外国語学部英語学科 3年 張政、外国語学部英語学科 3年 藤岡希（学生記者）

challenger 02

名 前 神田優那（かんだゆうな）
所 属 外国語学部交流文化学科 2年
はじめたこと ホームシアター

コロナ禍でうち時間を充実させてくれたのがプロジェクターと巨大なスクリーン。最大の魅力は「大画面で迫力があり、必要な時に取り出せるので場所を取らない」こと。また、気分に応じてスクリーンを映す場所を変えられる利便性も。元々映画鑑賞が趣味だったが、たくさんの作品を大画面で見たいと思い、購入を決めた。外出を控えたいこの時期にレンタルDVDが自宅に届けられるサービスを使い、ミュージックビデオからホラーや恋愛、アクションといった様々なジャンルの映像作品を、自分専用のホームシアターで楽しんでいる。



challenger 01

名 前 尾木草輔（おぎそうすけ）
所 属 法学部法律学科 2年
はじめたこと ドライブ

コロナ禍で運転免許を取得してから、ドライブが趣味になった。行くところは様々で、車に乗ってから行き先を考えることもある。これもまたコロナ禍でハマって繰り返し観ている好きなドラマの聖地巡礼にふらっと行ってみることもあれば、深夜の誰もいない鎌倉に友人と行ってみたり、房総半島南部の綺麗な景色を見に行ったりもした。自分のペースで目的地に行けるので、気ままに寄り道することもできるし、密になることも回避できる。フロントガラスから見える景色は、普段見ている景色とは異なることもあるので、ぜひ皆さんも気分転換にハンドルを握ってみては？



浜金谷（千葉県富津市）のイタリアン

challenger 03

名 前 張政（ちようせい）
所 属 外国語学部英語学科 3年
はじめたこと デジタルイラスト



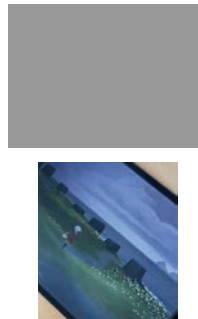
「Procreate」というデジタルイラストアプリで、独自の世界観を描写する。落ち込むときやイライラするときに、絵を描き始めると「嫌」な時間が止まり、「自分だけ」の空間ができる。

コロナの影響でオンライン授業に変わったため、学習用のiPadを購入した。子供の頃から絵を描くことに興味があったが、この機会にデジタルイラストを始めた。今まで慣れてきた紙と鉛筆の感触が、スクリーンとタッチペンに変わった。最初はなかなか使いこなせなかったが、練習を重ね、SNSでイラストレーターとして活躍できるまでに成長。アイコンの依頼からロゴのデザインまで、ソーシャルメディアを通して、各国の絵仲間と繋がり、イラストの世界に進出しつつある。今ではアプリで自分のオンラインショップを開き、オリジナルのデザイン柄でTシャツやマグカップなどのグッズを販売している。

challenger 07

はじめたこと
ゲーム

名 前 登山裕佳子 (とやまゆかこ)
所 属 外国語学部英語学科 3年



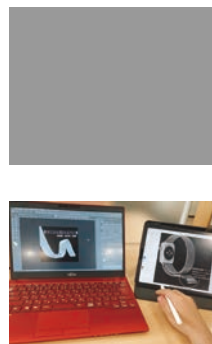
コロナ禍でも人数を問わず楽しめるのがゲームの魅力。

コロナ禍でNintendo Switchを購入し、ゲームを始めた。攻略情報を集めつつレベルアップを目標に毎日地道に作業を進める。今ではiPadを使用したロールプレイのアクションゲームや冒険ゲームなど様々なジャンルのゲームを楽しんでいる。今まであまり話したことがなかった友人とも、ゲームの話題を通じて盛り上がる事ができた。また、人見知りの性格でも、ゲームを介してコミュニケーションを楽しむことができるのがゲームの楽しみのうちの1つ。

challenger 04

はじめたこと
画像編集

名 前 吉見麻菜 (よしみまな)
所 属 経済学部経済学科 2年



1年の春、コロナ禍で全ての授業がオンライン形式となり、何か新しいことを始めてみたいという気持ちから画像編集を始めた。最初は操作に慣れず、とにかく触って使い方を覚えていった。少し慣れた頃にインターネット上で商品を販売している知り合いから声がかかり、商品ページやお客へのメッセージカードのデザインを担当。どのようなレイアウトにすると売れ行きが良くなるかなどを考えることがとても楽しかった。現在は動画編集も学び、所属しているサークルの企画で動画制作も行っている。操作を重ねてより良い画像や動画を作製できるようになりたい。

challenger 08

はじめたこと
バイクライフ

名 前 石川達也 (いしかわたつや)
所 属 外国語学部交流文化学科 3年



バイクはHondaのCB250R。よく週末にツーリングをしている。最近、バイク好き・F1好きが集まるサークルを発足したので、仲間を募集集中。

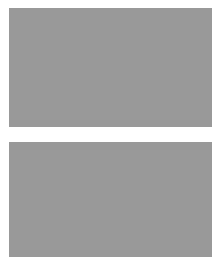
もともと、ロサンゼルス(海外旅行)に行くためにアルバイトをしてお金を貯めていた。しかしコロナ禍で海外へ行けなくなってしまい、なんのためにお金を稼ぐのか自分自身の目的・指針を持ちたいと思い、幼い頃から好きだったバイクの免許取得とバイク購入を決意。大学2年の夏に自動車教習所に通いながら、費用を貯めた。

風を切る感覚や自然の匂い、バイクを自分で操作することの楽しさがお気に入り。また、二輪と四輪が混走する公道がいかに危険か身をもって知ることができた。将来は安心して安全なモビリティ社会を作りたいと思うようになった。

challenger 05

はじめたこと
宅トレ

名 前 原 友里恵 (はらゆりえ)
所 属 外国語学部英語学科 1年



元々、運動するのが大好きなので、コロナ禍で新しく「宅トレ」を始めた。宅トレとは家の中で出来るトレーニングのこと。おうち時間が増え、運動不足になりがちだったが、これを始めてから気分転換や、ダイエットにもなるので、自然と気持ちがポジティブになった。

宅トレの参考に、人気YouTuberの動画を見ている。運動だけでなく、体に気を使った料理も教えてくれ、誰でも簡単に始められるのでぜひ試してもらいたい。コロナで制限されていることはたくさんあるが、自分次第でできることは広がる。私は、自分の興味あることに挑戦してみる時間が増え、工夫することの大切さを学んだ。

challenger 09

はじめたこと
投資

名 前 堀口太陽 (ほりぐちたいよう)
所 属 外国語学部英語学科 3年



教えてくれた従兄弟と。携帯、パソコンから自身の投資状況がプラスなのかマイナスなのか一目で分かる。積立金額が毎月自動で支払われるので難しく考える事なくただチェックするだけでいい。

投資を始めたのは大学2年生の5月頃。従兄弟が既に始めていたこと、映画で観た「セカンドライフ」に興味を持ち、投資を始めた。私が始めたのは「つみたてNISA」。これは自身で株価や情勢を見極めて投資をするというものではなく、投資信託制度を活用して、投資家たちから集めた資金をもとに、ファンドマネージャーに銘柄を選んでもらう。

投資初心者でも、20年間運用益と分配金が非課税なので低コストかつ長期的運用可能なのが特徴的である。将来は海外の自然に囲まれた場所で暮らすことを目指している。

challenger 06

はじめたこと
note

名 前 村井ひかり (むらいひかり)
所 属 外国語学部ドイツ語学科 2年



投稿にはいつも自分のパソコンかスマートフォンを使う。

コロナ禍ではじめたのが「note」への投稿。noteとは、クリエイターが文章や漫画、写真、音声などを投稿できるインターネット上のプラットフォームの一つ。コロナによって家族以外の他人と接する機会が激減し、一人で考え事をする時間が増えた。以前は友人と直接話していたことも、オンラインでのやり取りではうまくいかなかった。そこではじめたのが「note」である。これまでいくつかの投稿をしたが書くたびに歯がゆい思いをしている。自分が思っていることをうまく文字で表現できたことが一度もないからだ。それでも「自分の感じていることを形にしたい」という気持ちがあるから続けている。

MESSAGES

メッセージ

ことばへの配慮

外国語学部長 渡部 重美

WATANABE Shigemi
慶應義塾大学(文学修士)■専 門
18～19世紀の
ドイツ文学・思想■担当科目
ドイツ語圏文学・思想概論、
応用ドイツ語 ほか

遠隔ライブ授業を始めた昨年度春学期、端末の画面に向かって話をしているうちに、ふと虚空に向かってしゃべり続けているような気分になって、その瞬間に頭の中が真っ白になり、話そうと思っていたことがすっかり飛んでしまったことが何度ありました。自分の話すことばの向かって行く先が曖昧になり、どこに届いているのかわからないことばを発し続けることが急に不安になり、最後はことばを失ってしまったわけです。

似たような体験をなさった先生方が他にもいらつしやるでしょうし、恐らく、授業を受けている学生みなさんも、自分の発言がうまく伝わっているのかどうか心配になったり、そもそも、自分が授業に参加していること自体が先生の方ででき

んと把握されているのかどうか気になったりした方はいないでしょうか。

* * *

コロナ禍で授業や会議などが遠隔で行われる中、「ことば」の問題が非常に先鋭化された形で顕在化してきているように思えます。例えば、対面であれば何気ないひと言、たわいのないひと言で済んだものが、遠隔だと妙に冷たく、辛辣に響いて人を傷つけたり傷つけられたりして、その場がギスギスした雰囲気になったりするの、恐らく、メールやSNSでやり取りをしているうちに交わされることばが次第に厳しく、容赦ないものになるのと原理的に同じことではないかと思

ます。

対面と遠隔の一番大きな違いは、人と人との間に端末が介在する点です。最近ではZoomなどの機能も向上して使いやすくなっていますが、ビデオをオンにした状態であっても、相手の表情の微妙な変化、視線の向かう先、相手の呼吸や、場合によっては貧乏ゆすりなどの身体的状況に関する情報はほとんど入ってきません。あるいは、見極めるのがとても難しい。対面の場合には、このようなことば以外の情報が私たちのコミュニケーションを補い、支えてくれます。遠隔の場合は、少々大げさな言い方をすれば、ことばだけがコミュニケーションの唯一の拠りどころなのです。この拠りどころがうまく機能しないと、私たちは深刻なコミュニケーション障害に陥るのです。したがって、遠隔の場合は、対面のとき以上にことばへの配慮が必要となるわけです。

* * *

ことばへの配慮は、ことばを交わす相手に対する配慮、相手に寄り添う気持ちや態度と結びついてくるはずです。ことばにはもともと、一般化して表現する性質があります。Aさんのたとえのような苦しさも、これを「苦しい」と一般的なことばで表現しなければ人には伝わりません。ですが、「苦しい」と言った瞬間に、Aさんが抱える苦しさの「たとえ」のようなさ、つまり個別性・特殊性はそぎ落とされてしまいます。対面であれば、ことば

以外の情報によってAさんの苦しさの個別性・特殊性をある程度察してあげることも可能でしょうが、遠隔の場合には、「苦しい」ということばの背景にあるAさん固有の事情を対面のとき以上に想像し、配慮してあげる必要があるでしょう。もちろん、これは容易なことではありません。

* * *

「2021年度 学長メッセージ」の中で、コロナ禍の先に学生みなさんが目指して行く社会は思いやりにあふれているはずだ、と山路学長が書いていらつしやいます(「獨協大学ニュース」2021年5月号、3ページ参照)。この学長のことばはとても印象深く、私の心に刻み込まれました。コロナ後の世界はコロナ前とは大いに異なった世界になるでしょうが、この間の経験を生かし、ことばへの配慮を忘れず、ことばを交わす相手に寄り添う気持ちを持つことによって、思いやりにあふれた優しい社会の実現が可能になるのではないかと私も考えています。

新型コロナウイルス感染症がもたらした世界の分断 ～学問の可能性～

法学部長 鈴木 淳一



SUZUKI Junichi
筑波大学(法学修士)

- 専 門
国際法(国際公法)
- 担当科目
国際法
国際人道法
国際組織法

はじめに

新型コロナウイルス感染症(「新型コロナ」)は世界を席巻しています。2020年1月に世界保健機関(WHO)の緊急委員会は「公衆保健上の緊急事態(PHERC)」であると宣言し、3月にはWHO事務局長のテドロス氏も、地球規模の感染拡大を意味する「パンデミック」であることを認めました。来年の1月で発生からほぼ2年経過することになりますが、人類は新型コロナの影響下にまだあることが予想されます。

従来の感染症とは異なり、新型コロナは私たちの生活を世界規模で一変させてしまいました。では新型コロナが世界に拡大し、国際社会がこれを阻止できなかった理由は何でしょう。

パンデミックを予測していた国際社会

感染症対応では、見えない全体像を探り、未来に生ずるであろう事象を予測しながら、あらかじめ準備をしておくことが大切です。国際社会もWHOを通じて来るべきパンデミックに備えてきました。特に2005年に改正された国際保健規則は、感染症に対処するために世界の全ての国家が共通の対応能力を獲得して、もし危険な感染症が発生したらWHOを中心として国際社会全体で対応するような仕組みを構築しました。新型インフルエンザ(A/H1N1)、エボラ出血熱、ジカ熱への対応では、多くの感染者、犠牲者を出しながらも、世界は封じ込めに成功してきました。

新型コロナウイルスでの失敗

しかし新型コロナは私たちの準備を嘲笑うかのように、感染症対応の網の目をすり抜けて行きました。私たちが気づいたときには、新型コロナは世界中に蔓延しており、医療が整備されて準備が十分にできていないのは先進国ですら瞬く間に感染が広がりました。

従来の感染症対策は、感染者の症状を基準として、感染者と非感染者を区別することを前提としていました。新型コロナは、たとえ感染しても症状がでなかったり軽症であつたりするため、感染者と非感染者の区別が困難である特徴を有しています。新型コロナの感染拡大の初期段階では、早期発見・隔離というこれまでの方法によっては、感染拡大を完全に阻止することはできませんでした。

対応に苦慮する世界

新型コロナの厄介な点は、年齢や基礎疾患の有無によって症状や重篤化のリスクが異なる点でした。感染症のリスクは個人や集団の属性によって異なりますから、社会全体に同じ行動を求めることが難しくなっています。また対策の切り札であると考えられるワクチンを世界に供給するため、国連を通じてCOVAXという枠組みができましたが、世界のすべての人々にワクチンを届けることは難しく、世界の格差や不平等・貧困といった課題が繰り返し指摘されました。感染症対策によって世界の分断が意識されることは悲しい現実です。

いままでのところ国際社会が一丸となつ

て新型コロナに対応することができていません。新型コロナに対抗し、将来のパンデミックを予防するために、WHOの会合が今年の11月に臨時で開催されます。そこでは、今回の新型コロナ対応の反省を踏まえて、新しい仕組みについて検討される予定です。新型コロナへの対応で後手に回ったと批判されるWHOのそして世界の名誉挽回となるのか注目されます。

人類としての連帯と学問の可能性

新型コロナで分断され断片化された世界では、宗教やイデオロギーを巡る従来から存在していた対立だけではなく、SNSなどの新しい技術を通じた人々間の分断が顕著となっていました。個人が所属している個々の世界とは異なる世界を「嘘(フェイク)」として否定したり攻撃したりする例もみられるようになってきました。

私たちは、他人を理解し人類として連帯する勇気を持たねばなりません。大学で学ぶ学問は他人を理解するためのヒントを私たちに授けてくれることでしょうか。言葉や文化を学ぶことを通じてこれまで接したことのない別の世界を理解し、経済学や法学の勉強を通じて新型コロナによって分断された世界を再び統合する方法を見つけることができたなら素敵なことですね。

人類が英知を結集して、新型コロナによって分断された世界を再統合し、新しい世界像を提示し実現できることに期待したいと思います。



先輩から学ぶキャリア航海

未来への 羅針盤

vol. 31

株式会社ブラザーズ 代表取締役

北浦 明雄さん (97年済卒)

きたうら・あきお 本学卒業後にオーストラリアを訪れ、シドニー郊外の町グリーブで出会ったハンバーガーが、その後の人生の指針に。現在は複数店舗を展開し、グルメバーガー業界のリーディング老舗カンパニーを目指す。座右の銘は「最後までやり通す」。



**大学を卒業後、就職をせずに
起業の道を選んだのは何故ですか。**

3年生になり就職活動が始まってからも「自分は何をしたらいいんだろう」という迷いや、就職活動そのものの抵抗感、違和感がありました。大学まではなんとなくレールの上を歩いていたのに、突然たくさん選択肢が目の前に現れたような感覚です。それで、とりあえず行動だとホテル業や飲食業の入社試験を受けてはいたのですが、ほとんど一次面接から先に進めず、敗北続きでした。

実際には、それが「これからの人生を、自分は どう生きていくのか」とじっくり考える大事な機会になりました。自信のなさ、将来に対する漠然とした不安感、人付き合いへの苦手意識など、たくさん抱えていた自分を変えたいという新たな心境になったんです。

そこで、海外で働いて自活することに挑戦しようと思い、ワーキングホリデー制度を使ってオーストラリアへ行くことにしました。滞在期間中にアルバイトをしたハンバーガーショップでの仕事が好きで楽しく、「日本でこんな店をやりたい」と思ったのが、起業のきっかけです。人形町に1号店をオープンしたのはそれから2年後、25歳のときでした。

起業するとき、怖くなかったですか？

初めてオーストラリアに行ったときに比べれば、怖さはなかったですね。シドニー到着後は泊まる場所も働くところも決まっていなかった状況で、空港で足がガクガク震えていました。そこで恐怖心に向き合い乗り越えた経験があったので、起業・

開店するときは「成功すること間違いない」と思っていたほどです。

海外に行き一人で生活するという体験は、その後の人生や価値観を大きく変えてくれるものだと思います。学生の皆さんにはぜひ経験してもらいたいです。

**お仕事をやるうえで、
特に大切にしていることを教えてください。**

以前は店舗でハンバーガーの調理などを担当していましたが、現在は店舗運営や調理のルールづくり、財務といった、経営者としての仕事を中心です。また企業経営に関する書籍を読むなど、私自身が経営者として成長するための勉強も重視しています。

店舗での業務で、一番大切にしているのは掃除です。「凡事徹底」という言葉に倣って、基本的なことを毎日しっかりと続ける。誰でもできる「掃除」を、誰にもできないくらいまで徹底してやるのが、おいしいハンバーガーづくりへの想いやお客様に喜んでほしいという心を育てると考えています。私としてはハンバーガーがおいしいとほめていただいたときよりお店がきれいと言われたときの方が嬉しいくらいです。
これからの夢や、目標を教えてください。
一つは、会社の業績向上です。これは、企業経営者としての私の義務でもあります。

「学生へのメッセージ」

- ①「外」に出て、いろいろな人と関わろう。興味を持ったことには積極的にアプローチし、「未体験ゾーン」を開拓しよう。
- ②人生は自分自身のもの。自分が望む人生を手に入れるために、周囲の声に惑わされず、自分の選択に自信を持とう。

今回のナビゲーターは私たちです！

ブラザーズはハンバーガーを通じてお客様に喜びや感動を与えられるよう、日々努力している会社だと感じました。「誰もがができる事を、誰にもできないくらいまで徹底して行う心」と「人や社会に喜びを与えたいという心」を大学での4年間で身に付け、人と社会に貢献できる人材になりたいと思いました。

齋藤 駿斗(律1年)

とても温厚で、終始明るく取材に応じてくれた北浦さん。言葉遣いがいいので、一言一言が自信に満ちていました。4年後には、私も社会人の仲間入りです。インタビューを思い出しながら「頑張らなければ」と思いました。

古谷 一真(交1年)

もう一つは事業を通して得られたものを社会に還元し「社会に貢献する、世の中を良くしていく」ということです。その取り組みの一端が、地域での清掃活動です。掃除をして街をきれいにすることで犯罪率が下がった例もあり、掃除には、地域や社会を良くするという効果があります。
地域の掃除は、学生の皆さんにもできることです。自宅の周囲や、大学までの道中で「ゴミを拾うだけでも社会貢献になる」と思います。ぜひ始めてみてください！

仕事の現場から

Vol.15

卒業生に
仕事についての喜びや、
獨大生に向けてのメッセージを
語っていただきます。

大学時代の経験と決断が、 挑戦を支える「スタート」になる



私は今年の4月に英語のコーチングスクールを開校し、学生から社会人まで、幅広い生徒に指導を行なっています。「コーチング」とは、現在の学習レベル等を考慮しつつ、目標を達成できるように日々サポートしていく指導法です。私の教室では、入校前に生徒の皆さんの目標と現在の習熟度をチェックし、教材や学習時間を決めてカリキュラムを設定しています。これに従い、数か月間進捗を確認しつつ指導をしています。「英語



Nami Private English Coaching代表
佐藤 奈美 さん(18年英卒)

を教える」というより、「英語の学び方を教える」教室です。

当初、私は中学生の頃から得意だった英語を活用して働きたいと思い、国際的な物流企業を志望していました。しかし就職活動で複数の企業の採用面接を受け、物流の世界ではなく英会話学校のほうが自分に向いていると感じました。悩んだ末、大学を卒業して英語教育の道に進むことを決め、英会話学校で1年、コーチングスクールで2年働きました。働いてみて、個別指導は指導料が高額になりがちであることを感じ、個人経営ならば手軽に学べる環境を創れるのではないかと現在の教室を開きました。教室の運営や経営についての知識はほとんどありませんでしたが、周囲の皆さんのご支援のおかげもあり半年で数多くの方々に入学いただいています。

カリキュラム通りに進めない、指導内容に納得できない、難しくてよくわからない、やる気が出ないなど、皆さんいろいろな悩みを抱えています。私はまず共感し、悩みを理解することを第一に考えます。次に、なぜ納得できないのか、どう改善すればいいのかを徹底的に話し合います。やる気が出ない場合は、私生活での悩みを聞くこともあります。私自身

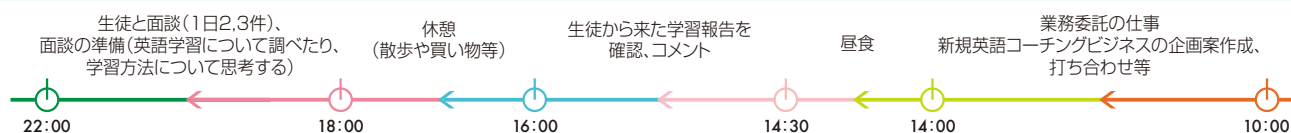


が悩んだ経験なども話し、共感をもとに指導していきます。

在学生の皆さんには、毎日学ぶことのできる環境をあたりまえだと思わずに、今できる学問を精一杯楽しんでほしいと思います。私自身もたくさんさんの授業を受けておけばよかったと思うことがあります。英語の教授法や経営、経理についてなど、私のように思わぬところで必要になるかもしれません。

就職活動も同じで、どの選択肢にその先の可能性が広がっているかわかりません。希望の職種でなくても、そこで得たスキルからその先の人生がより良い方向へ進んでいくこともあります。就職は人生を決める大きな選択ですが、ゴールではありません。そこから新たな自分を知り、スタートすることもできます。どうか獨大生の皆さんも、今の大学生活を輝かしい「スタート」を切るチャンスにしてください。

佐藤さんのある一日のタイムスケジュール



文化会創造冊子『文令栄華』発行

学友会文化会本部は、対面授業が再開された6月21日から7月下旬まで、文化会創造冊子『文令栄華』を学生センター1階に陳列した。この冊子は、文化会本部が学友会総務部長室事務課の協力のもと、コロナ禍で制限された活動の成果を発表するために発行した。内容は、文化会の各所属団体の紹介のほか、自由な記述でそれぞれの活動を表現している。

冊子名の『文令栄華』は「文明開化」「令和」「栄華」を組み合わせた造語。制作に携わった第57期文化会本部企画局長の齋藤美幸さん(律3年)は「コロナ禍の影響で新入生の勧誘活動が思い通りにいかず、学友会団体の入会率が低くなっている。この冊子を見て、少しでも文化会に興味を持ってもらえたら嬉しい」とコメントしている。

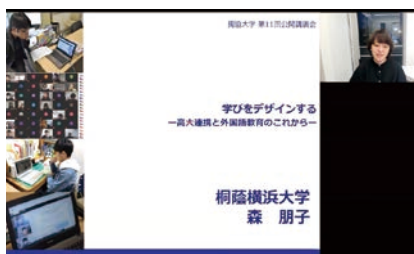


外国語教育研究所 第11回公開講演会を開催

外国語教育研究所は、6月25日に桐蔭横浜大学副学長・教育研究開発機構教授の森朋子氏を招き、「学びをデザインする—高大連携と外国語教育のこれから」というテーマで第11回公開講演会をオンラインにて開催した。

森氏は、これからの大学カリキュラムで育成すべき学力を、知識・技能などの「見える学力」、思考力・判断力など「見えにくい学力」、人間性や学びに向かう力など「見えない学力」の3層に分けて示し、「深い学び」とは何か、そこにどう導くべきかを、理論と教育実践の往還に根ざした学習理論の視点から解説した。

平日の夜にもかかわらず、日本各地の研究者、教員、学生のほか、会社員など一般の方々を含め158名の参加があった。質疑応答には多くの質問が寄せられ、充実した講演会となった。



地域総合研究所公開講演会開催

地域総合研究所は、7月29日にLondon School of Economics(ロンドン大学)名誉教授のChristine Whitehead(クリスティン・ホワイトヘッド)氏を招き、「ポストコロナの住宅、都市と関連政策」というテーマで2021年度公開講演会をオンラインにて開催した。

ホワイトヘッド氏は、新型コロナウイルス感染症拡大により、人の生活や働き方に変化が起きており、住宅や都市の在り方も同じく影響を受けているとの示唆に加え、ポストコロナにおける住宅、土地、都市の関連政策について今後の展望をまじえた解説を行った。本講演会は、海外の研究者を講師に招き、同時通訳を介してのオンライン講演会という点で、本研究所としてはもちろんのこと、本学としても初めての試みとなった。

当日は、研究者・教員・学生はもとより、中央省庁・地方自治体・企業・シンクタンク等から国内外合わせて約230名の参加があった。



2021年度9月卒業式を挙

9月20日、2021年度9月卒業式・学位記授与式を天野貞祐記念館大講堂で挙行し、107名の卒業生が旅立ちの日を迎えた。当日は、新型コロナウイルス感染症予防の観点から、出席者を卒業生と教職員のみに限定して実施した。

山路朝彦学長は式辞で「常に世界の動きとともに足もとにも目を向け、人生を自ら積極的に設計し、逞しく生き抜いて下さい。獨協大学を巣立っていく全ての卒業生の皆さんが、これから社会に出て、幸福で、健康な人生を歩んでいくことを祈念しています」と述べた。

また、卒業生を代表して加藤横吾さん(言4年)は「快適な学びの場と、数々の興味深い授業を提供して下さった獨協大学の先生方、職員及び関係者の皆様には、感謝の念が尽きません。多くの出会いと思い出は、私たちの生涯の宝物です。」と謝辞を述べた。

■学 士 独13名、英18名、仏9名、交10名、言22名、済15名、
営11名、環5名、律1名、国関法1名、総2名 計107名



新型コロナウイルスワクチン 職域接種終了

8月30日より開始した新型コロナウイルスワクチン職域接種が10月8日で終了した。獨協医科大学(栃木県壬生町)及び獨協医科大学埼玉医療センター(埼玉県越谷市)協力のもと、本学の学生、教職員とその家族及び委託事業者等学内勤務者と獨協中学高校、獨協埼玉中学高校の高校2、3年生や獨協学園の関係者等、合計で約4,000名の希望者が接種を受けた。

接種を受けた学生は、「緊急事態宣言が延長されるなど感染拡大がおさまらない中、大学でワクチン接種ができて少し安心しました。マスク着用など感染防止対策は、ワクチン接種後も必要だと思いますが、対面授業がやりやすくなると期待しています」と述べた。

本学では今後も新型コロナウイルス感染症拡大防止対策を十分に取しながら、学生の学修機会等の確保に努める。



2021年度「子ども大学そうか」開催

7月17日、創立50周年記念館(西棟)で「子ども大学そうか」の入学式と授業が行われた。

「子ども大学そうか」は、草加市と本学が共催する社会教育事業で、今回で7回目の開催。草加市内の小学5,6年生が本学キャンパスなどで計5回の授業を体験する。入学式には小学生33名が参加。山路朝彦学長は、「子ども大学そうかは、皆さんを未知の世界へ連れて行ってくれます。楽しく学び、気づき、成長する場となることを願っています。」と挨拶した。

授業ではジョルジュ・ヴェスィエールフランス語学科専任講師による講義「フランス語で友達を作れるようになろう」が行われた。始めは緊張した面持ちだった小さな「学生」たちも、次第にフランス語の発声を自信を持って楽しめるようになっていった。



2021年度防災訓練実施

10月15日、2021年度防災訓練を実施した。授業中に「首都直下地震」が発生し、震度6強の地震に見舞われたという想定で、学生・教職員がシェイクアウト訓練、避難者安否情報集約訓練、及び避難誘導訓練を行った。関連して非常災害対策本部(W-202教室)設営訓練、各建物の防火戸・防火シャッターの開閉確認を行った。また、希望者参加訓練では、避難所設営訓練、備蓄品の配布訓練を実施。今回初めて学生センターで実施した避難所設営訓練では、草加市危機管理課の協力を得て災害対策用のテントなどを設営したほか、学内で保有する防災備蓄品の展示を行い、参加者からは「避難生活を身近に感じる機会になった」とコメントが寄せられた。



国際環境経済学科・環境共生研究所共催 Earth Week Dokkyo2021~Summer~開催

6月21日から26日にかけて、「獨協大学環境週間“Earth Week Dokkyo 2021~Summer~”」がオンラインと対面を併用して開催された。このイベントは年2回開催され、実行委員の学生が企画運営を行い、未来を担う学生や教職員に地球の現状と持続可能な社会について考える機会を提供している。

6月23日には、講演・討論会「第7回フクシマの未来を考える～大学生のうちに知っておくべきこと～」が開催され、岡村りらドイツ語学科准教授による基調講演と福島第一原子力発電所・廃炉資料館視察ツアーに参加した教員による報告がなされた。

また、今年度6月に本学が、福島イノベーション・コースト構想推進機構の「大学等の『復興知』を活用した人材育成基盤構築事業」に採択され、今後福島県田村市で「環境に配慮した持続可能なまちづくり」の仕組みを構築し、情報発信と国際交流を進めていくことが報告された。



オープンキャンパスを開催

6月6日、8月7日・8日に、来場型のオープンキャンパスを学内で開催した。今回は、人数制限やコロナウィルス感染症対策を徹底したうえで開催となった。受験を間近に控えた高校3年生に加え、大学進学を志望している高校1,2年生やご父母などの参加もあり、3回合計で3,866名の来場があった。

また、8月21日・22日、10月3日では、オンライン参加型の「ヴァーチャル・オープンキャンパス」を開催した。学部学科の授業体験、各学科の部屋、入試対策講座、在学生によるトークライブやキャンパスツアー等をLIVE配信し、各企画とも多くの反響があった。



井村順一先生追悼

江花輝昭

井村順一先生は東京大学教養学部を定年退官された後に本学に移られ、フランス語学科長、外国語学部長等の要職を歴任されました。先生のご専門は十七世紀フランス語学・文学で、その分野において数々の重要な著作・論文を残されましたが、エネルギーな授業ぶりでも学生に強い印象を与えました。

私が大学院に入った年にお会いしたのが最初の出会いでしたから、あれからすでに四十有余年が経過したことになります。先生が逝去された現実をいまだに得心しかねる自分がいるのですが、先生の在りし日を偲び、ご冥福を心より祈念したいと思います。

(えばな・てるあき フランス語学科教授)

訃報



井村 順一 (いむら・じゅんいち)

名誉教授

2021年9月23日、病気のため死去、88歳

1994年 フランス語学科教授

1999年 フランス語学科長

2000年 外国語学部長

2002年 名誉教授

保莉瑞穂先生を悼む

筒井伸保

フランス語学科名誉教授保莉瑞穂先生が本年7月に居住先のパリで鬼籍に入られたとの報せがありました。保莉先生は東京大学教養学部教授を定年退官後、1998年に本学フランス語学科に移籍され、在職中にはフランス語学科長・外国語学研究所委員長を歴任、2008年に定年退職され、名誉教授となりました。三代目三遊亭金馬の甥というチャキチャキの江戸っ子で、専門のフランス文学研究ではブルースト、ヴォルテール、モンテーニュといった「品の良い」フランスらしい作家たちを対象にして多くの著作を世に現してられました。謹んでご冥福をお祈り致します。

(つつい・のぶやす フランス語学科教授)

訃報



保莉 瑞穂 (ほかり・みずほ)

名誉教授

2021年7月10日、病気のため死去、83歳

1998年 フランス語学科教授

2001年 外国語学研究所委員長

2003年 フランス語学科長

2008年 名誉教授

2021年度春学期

「学生による授業評価アンケート」実施報告

【実施概要・調査方法】

2021年度春学期「学生による授業評価アンケート」は、原則、第13回目あるいは第14回目の授業日（最終授業日）（7月9日～22日）の指定クラスにて教員から学生への指示の下で行いました。しかしながら、リアルタイム型以外の授業では授業中に教員から学生へ指示を出すのが難しいため、対象となる全ての学生に対して、7月9日～25日の間に各自アンケートに回答するようPorTaII個人向け掲示板や電子メールなどにより呼びかけました。

アンケートはアンケートA（選択式）とアンケートB（自由記述）の方式をとり、アンケートAでは授業ごとに「学生の出席状況」「授業に関する5項目の質問」「授業の問題点」について選択肢を設けました。アンケートBでは学生からの要望・意見を記述式で求めました。

また、回答者の授業評価が一定以上出席した上での判断であるかどうかを把握するために出席状況を確認し、「24%以下」「ほぼ全回欠席」と回答した学生に対しては、低出席の理由を回答する選択肢を設けました。

【集計方法】

アンケートAは授業ごとの満足度を集計しました。アンケートBは学科・学年・出席状況の入力と、自由記述部分は回答者が入力した原文をそのまま集計しました。なお、集計の際には学生個人を特定するデータは一切含まれていません。

【集計結果】

以下の全体集計結果をご参照ください。

【教員へのアンケート結果の報告】

アンケートAおよびアンケートBの集計結果については、各教員は8月6日から各自の担当科目についてPorTaIIで閲覧可能となっています。

また、各教員が自分の授業の評価が全学でどの位置にあるかを把握できるよう、担当する授業の評価と全学平均を比較表示した資料を個別配付しました。資料では、授業に関する5項目の質問の回答を「そう思う＝1.5」「ややそう思う＝0.5」「あまりそう思わない＝0.5」「そう思わない＝1.5」「わからない＝0」として、平均値を算出し、評価指数としました。

なお、アンケートAおよびアンケートBとも回答者が特定できないようにシステム設計されています。

【今後の方針】

授業評価アンケートにより、教員は学生の授業に対する評価・感想・要望などを知ることができ、授業計画の修正や、授業方法の改善を図ることができます。授業評価アンケートは学生の意見をとり入れながら授業の質や教育効果を高めていく手段として重要なものです。

本学ではアンケート結果に対する各教員から学生へのフィードバックを公表する制度（※）を継続して実施しています。授業に対する教員・学生の理解が互いに深まり、よりよい授業が展開されるよう取り組んでいきたいと考えています。

（自己点検・評価室）

※学生へのフィードバック公表制度について

各教員の任意によりフィードバックが寄せられます。内容は評価結果について

①項目別の納得度および項目別の意見・感想、②全体の納得度、③全体の意見・感想が記されています。フィードバックは、PorTaIIにより当該科目の受講生限定で9月3日から随時公表しています。

2021年度春学期「学生による授業評価アンケート」全体集計結果

2021年度春学期「学生による授業評価アンケート」の授業形態別（講義・外国語・演習・体育）の全学的な平均値を報告します。

	対象者数	回答者数	回答率
21春学期	8,059	3,000	37.22%
20春学期	8,436	3,061	36.28%

1 授業形態別 出席状況(全学平均)		単位 %							
項目	選択肢	講義		外国語		演習		体育	
		21春学期	20春学期	21春学期	20春学期	21春学期	20春学期	21春学期	20春学期
出席状況	100～75%	89.4	92.2	94.7	96.1	91.3	94.0	91.4	93.3
	74～50%	7.3	5.1	3.9	2.8	6.7	4.6	5.6	4.4
	49～25%	1.2	1.2	0.6	0.5	0.5	0.8	0.0	2.2
	24%以下	0.7	0.7	0.3	0.3	0.6	0.2	0.0	0.0
	ほぼ全回欠席	1.4	0.8	0.5	0.3	0.8	0.4	3.0	0.0
	不明（未記入）	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0

2 授業形態別 低出席者率・理由(全学平均)		単位 %							
項目	選択肢	講義		外国語		演習		体育	
		21春学期	20春学期	21春学期	20春学期	21春学期	20春学期	21春学期	20春学期
低出席理由	授業内容に不満	21.4	39.7	26.0	42.9	0.0	0.0	0.0	0.0
	必修科目外	30.3	18.3	14.0	19.0	0.0	7.7	50.0	0.0
	アルバイト	6.3	9.7	8.0	7.1	0.0	15.4	0.0	0.0
	就職活動	19.7	15.6	14.0	19.0	40.6	38.5	33.3	0.0
	クラブ・サークル	1.7	0.4	0.0	0.0	3.1	0.0	0.0	0.0
	不明（未記入）	28.6	28.4	44.0	26.2	56.3	46.2	50.0	0.0

注1：「低出席者率」とは、出席状況「24%以下」「ほぼ全回欠席」を選択した人の率を指しますが、回答者の評価がその授業に一定程度出席した上での判断かどうかを把握するための作業上の基準であり、履修上必要な最低限の出席頻度を意味するものではありません。

注2：複数回答可。値は低出席者数における回答数で表したものです。

3 授業形態別 授業評価(全学平均)		単位 %							
項目	選択肢	講義		外国語		演習		体育	
		21春学期	20春学期	21春学期	20春学期	21春学期	20春学期	21春学期	20春学期
1. この授業の目標設定と内容は適切であった	そう思う	69.9	63.3	73.0	68.0	81.8	75.6	89.9	75.6
	ややそう思う	22.7	26.5	19.9	23.8	15.4	19.7	8.6	17.8
	あまりそう思わない	4.2	5.8	4.3	5.1	1.6	2.3	0.0	4.4
	そう思わない	1.8	3.0	1.8	2.2	0.5	1.3	0.0	0.0
	わからない	1.3	1.4	1.0	0.9	0.5	1.1	1.5	2.2
2. この授業の担当教員の説明はわかりやすかった	評価指数(ポイント)	1.1	1.0	1.1	1.1	1.3	1.2	1.4	1.2
	そう思う	62.0	54.7	64.5	58.5	79.7	73.0	90.4	77.8
	ややそう思う	24.5	27.6	23.3	26.3	16.9	20.0	7.1	17.8
	あまりそう思わない	8.3	10.0	7.5	9.5	2.3	4.0	1.0	2.2
	そう思わない	3.6	5.9	3.5	4.1	0.7	2.0	0.0	2.2
3. この授業は知的関心・教養を高めた、専門知識・技能を身につける上で役立った	わからない	1.6	1.7	1.3	1.6	0.4	0.9	1.5	0.0
	評価指数(ポイント)	1.0	0.8	1.0	0.9	1.3	1.1	1.4	1.2
	そう思う	66.6	59.0	67.6	62.7	80.2	73.5	85.8	66.7
	ややそう思う	24.5	28.8	23.3	27.3	15.9	21.6	11.7	26.7
	あまりそう思わない	5.4	7.4	5.8	6.3	2.5	2.9	0.5	6.7
4. この授業の難易度・進度は自分にとって適切であった	そう思わない	2.1	3.4	2.4	2.7	0.8	1.4	0.0	0.0
	わからない	1.4	1.4	0.9	1.0	0.6	0.6	2.0	0.0
	評価指数(ポイント)	1.1	0.9	1.1	1.0	1.3	1.2	1.3	1.1
	そう思う	59.5	53.0	61.2	57.4	72.9	66.8	86.8	68.9
	ややそう思う	27.0	29.5	25.9	29.2	21.4	24.1	10.7	22.2
5. この授業の担当教員は学生の質問や要望に応えた	あまりそう思わない	8.6	10.4	8.5	8.8	4.1	6.2	1.0	4.4
	そう思わない	3.4	5.4	3.3	3.5	1.2	1.8	0.0	2.2
	わからない	1.5	1.6	1.2	1.0	0.4	1.1	1.5	2.2
	評価指数(ポイント)	0.9	0.8	1.0	0.9	1.2	1.1	1.4	1.1
	そう思う	63.7	56.9	69.1	63.4	82.1	76.1	84.8	60.0
	ややそう思う	22.7	25.5	20.6	23.4	15.0	17.4	10.7	20.0
	あまりそう思わない	5.7	7.3	4.9	6.0	1.5	2.5	1.5	8.9
	そう思わない	2.6	4.6	2.7	3.0	0.5	1.3	0.0	4.4
	わからない	5.2	5.7	2.8	4.1	1.0	2.7	3.0	6.7
	評価指数(ポイント)	1.0	0.9	1.1	1.0	1.3	1.2	1.3	0.9

4 授業形態別 授業の問題(全学平均)		単位 %							
項目	選択肢	講義		外国語		演習		体育	
		21春学期	20春学期	21春学期	20春学期	21春学期	20春学期	21春学期	20春学期
授業の問題	テキストや教材が適切でない	2.0	4.0	1.6	1.8	0.7	1.4	0.0	2.2
	宿題・課題が適切でない	3.5	7.0	3.7	5.9	1.2	2.9	0.0	2.2
	板書が見えにくい	1.2	1.2	1.3	1.1	0.5	0.3	0.0	0.0
	教員の話が聞き取りにくい	3.7	3.7	3.4	4.1	1.5	1.8	0.5	0.0
	学生の私語が多い	0.3	0.1	0.8	0.1	0.3	0.0	0.5	0.0
	未提示休講がある	0.3	0.3	0.4	0.5	0.1	0.1	0.0	0.0
	教員の遅刻・早退が多い	0.4	0.4	0.8	1.1	0.3	0.0	0.0	0.0
	その他	1.8	2.3	2.2	2.5	1.2	1.0	0.0	0.0

注：複数回答可。値は「回答者÷対象者数」で算出しています。

アンケート結果について(授業評価部分)

講義 各項目における「そう思う」「ややそう思う」の割合は合わせて86%以上である。各項目の評価指数は、授業形態別では「外国語」と概ね同等で、「演習」、「体育」より低い。過去との比較では、全ての項目において5年連続で「そう思う」「ややそう思う」の合計が増加している。授業の問題については、「テキストや教材が適切でない」、「宿題・課題が適切でない」は20年度春との比較では指摘が半減しているが、コロナ禍前(19年度春)との比較ではそれぞれ1.5倍、4倍の指摘となっている。

外国語 各項目における「そう思う」「ややそう思う」の割合は合わせて87%以上である。各項目の評価指数は、授業形態別では「講義」と概ね同等で、「演習」、「体育」より低い。過去との比較では、全ての項目において「そう思う」「ややそう思う」の合計が増加している。授業の問題については、多くの項目で20年度春より改善しているものの、「宿題・課題が適切でない」については、コロナ禍前との比較ではおよそ2倍の指摘となっている。

演習 各項目における「そう思う」「ややそう思う」の割合は合わせて94%以上である。各項目の評価指数は、授業形態別では「体育」と並んで高い。過去との比較では、全ての項目において「そう思う」「ややそう思う」の合計が増加している。授業の問題については、20年度春との比較では指摘が増加した項目と減少した項目は半々であるが、コロナ禍前との比較では依然指摘率が高い。

体育 各項目における「そう思う」「ややそう思う」の割合は合わせて95%以上である。各項目の評価指数は、授業形態別では概ね「講義」、「外国語」より高く、「演習」と同程度である。過去との比較では、全ての項目において「そう思う」「ややそう思う」の合計が増加している。授業の問題については、「学生の私語が多い」以外の全ての項目において、コロナ禍前との比較でも改善が見られる。



本箱

本学の先生方が執筆された
新刊情報

Books column



金 秀晶(言語文化学科教授)・
朴 鍾厚(言語文化学科特任准教授) 共著
『もう初級者なんて言わせない韓国語
中級から上級編』

白帝社 2021年3月 2400円

韓国語の自主学習に使えるテキストブック。
ダウンロードして使用する音声ファイル付
きで、「国際通用韓国語標準教育課程」の中
級程度を想定した課題と練習問題を収録し
ています。



ヴェスィエール ジョルジュ
(フランス語学科専任講師) 著

『仏検準2級・3級対応
クラウン フランス語単語 中級』

三省堂 2021年4月 1800円

日常会話に焦点を当てた実用的な単語帳で
す。適切に定着・活用できるようにするた
めに、短い頻出フレーズや例文に加え、つま
ずきやすいポイントや用法を解説するコラム
も付いています。



根本 昭英(フランス語学科専任講師)、
ヴェスィエール ジョルジュ(フランス語学科専任
講師)、野澤 督(フランス語学科非常勤講師)
共著

『アクション! フランス語 A1』

白水社 2021年4月 2200円

ヨーロッパ言語共通参照枠を基に、第一歩
となるA1レベルのフランス語を学ぶテキ
スト。身近な人や物の紹介、説明など、日常で
使う表現のマスターを目指します。



半田 滋(言語文化学科非常勤講師) 著

『変貌する日本の安全保障』

弓立社 2021年4月 2500円

国際政治に深くかわかる、国防の問題。自衛
隊が担う日本の国防は、これまでどんな変
遷をたどってきたのか、そしてコロナ禍を経
てどう変わるのか。軍事面から日本の未来
を探る一冊です。



加藤 一彦(国際関係学科非常勤講師) 共編著

『新6版・現代憲法入門講義』

北樹出版 2021年4月 2800円

憲法の基礎概念から日本国憲法の特質の
説明など、現代憲法について学ぶ一冊で
す。憲法の現実と矛盾を解き明かしつつ、憲
法学へ誘う入門書であり、より深く学ぶた
めの助けになるはずです。

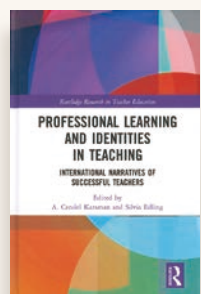


井上 たか子(名誉教授) 訳
(レジャース・セナック著)

『条件なき平等
私たちはみな同類だと想像し、
同類になる勇気をもとう』

勁草書房 2021年4月 2200円

「自由・平等・友愛」を掲げるフランスでの
「平等」が、実は抑圧者の「神話」でしかな
かった…その実相を、社会構造から描き出
す一冊。誰もが無条件に平等に生きるため
の真の道を探ります。

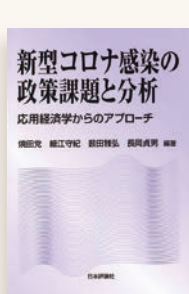


浅岡 千利世(英語学科教授) 分担執筆

『Professional Learning and
Identities in Teaching:
International Narratives of
Successful Teachers』

Routledge 2021年5月 £120

プロフェッショナルな教師として成長すると
はどういうことなのか、様々な文脈における
事例と教師自身が紡ぐナラティブを通してそ
の過程を探求しています。外国語教師を目指
す人にぜひ手に取ってほしい一冊です。



木原 隆司(国際環境経済学科教授) 分担執筆

『新型コロナ感染の政策課題と分析
応用経済学からのアプローチ』

日本評論社 2021年8月 4900円

世界を席巻した新型コロナウイルス。その
流行と感染対策によって、世界は大きく変
化しました。この「変化」が経済にどのよう
な影響を及ぼすのか、応用経済学の理論と
実証から分析します。

■ 獨協大学ニュース「本箱」欄に掲載する新刊情報をお寄せください。

本学教職員(非常勤講師含む)が執筆した単著・共著・分担執筆・監修・翻訳書などの新刊情報を募集しています。なお、価格は税抜表記として
おります。新刊がありましたら、中央棟2階総合企画課までご持参ください。表紙撮影後、返却いたします。

第32回獨協インターナショナル・フォーラム アルベル・カミュ:生きることへの愛

日 時:12月3日(金) 13:15~18:15
4日(土) 9:30~18:30

開催方法:オンライン開催(ZOOM)

使用言語:日本語、フランス語(同時通訳)

申込方法:参加無料・事前予約必要(こちらのQRコードより申込)

問い合わせ:国際交流センター(パンフレット配布中)

アルベル・カミュ没後60年を過ぎ、パンデミックによって混迷を極める時代にあって、カミュが守ろうとした人間の根源にかかわる諸価値は、ますます重要性を増している。カミュが生きたのは暗く、激動する20世紀であったが、彼の生涯は生きることへの愛に満ちていた。本フォーラムでは、国内外の研究者による講演・討論を通し、不条理と反抗の作家として知られるカミュのもうひとつの顔、「愛」の作家としてのカミュ像にせまります。コーディネーターは根木昭英専任講師(外国語学部フランス語学科)。お気軽にご参加ください。



表紙の紹介

本号表紙は、メインストリートです。秋になるとイチヨウが黄色く色づきます。奥に描かれている天野貞祐記念館は、図書館を中心にICZ (International Communication Zone) 等の総合学術情報機能とCAL (Computer Assisted Learning) 教室など教室機能を融合した、本学における知の創造拠点です。まさに「大学は学問を通じての人間形成の場である」という創設者・天野貞祐先生の建学の理念を具現化した本学のシンボリック建物です。

Illustration : Junichi Kishi

発見 きらめきの人

「発見!きらめきの人」のコーナーでは、学業・部活・サークル・イベントなど、さまざまな分野で「キラリ」と輝く仲間を紹介します。

◆ Vol. 75 ◆

今回のきらめきの方は、9月5日より放映中のテレビ朝日系「仮面ライダーリバイス」(毎週日曜 朝9:00~)で主人公 仮面ライダーリバイ/五十嵐一輝(いがらし・いっき)役を演じている本学学生の前田拳太郎さん(済4年)をご紹介します。



前田 拳太郎さん(済4年)

今のお仕事を始めた年齢やきっかけを教えてください。

昨年の夏頃からEXPG STUDIOで演技レッスンを受けるようになりました。

大学1年生の時に仮面ライダーになることを目標に、俳優を目指してジュノンスーパーボーイコンテストを受けました。しかし残念な結果となってしまい、一度は俳優になる夢を諦めました。その後、コロナ禍で部活動が出来なくなり将来についてゆっくり考える時間ができ、もう一度夢を追いかけてみたいと思い俳優を目指す決意をしました。

学生生活とお仕事の両立で大変なことや、獨協大学での経験(部活や学業)がお仕事に役立っていると感じる点があれば教えてください。

今のお仕事を始めてからはずっとオンライン授業ですが、仕事の方がかなりタイトなスケジュールなので、授業の課題に取り組む時間があまり取れず大変だと感じます。

舞踏研究会(競技ダンス部)に所属していたおかげで仮面ライダーのオーディションの時に監督さんやプロデューサーさんに姿勢がいいとすごく褒められたので、部活をやっていた良かったと思います。

今後の展望や新しく成し遂げたいことがあれば教えてください。

僕は演技を通して人に夢を与えられるような役者になりたいと思っています。

この1年間は仮面ライダーの仕事を精一杯頑張って沢山のことを学び、今後の俳優人生の糧に出来ればと思っています。今後は若いうちしかできない学園ものの作品などにも出演したいです。

獨協大学の在學生に向けてメッセージをお願いいたします。

今年9月から放送が始まった「仮面ライダーリバイス」で仮面ライダーリバイ/五十嵐一輝役を演じている前田拳太郎です。僕のことを知らない人がほとんどだと思いますが、是非観ていただけたら嬉しいです。

僕も在學生なので在學生に向けてのメッセージは正直どんなことを書いたらいいかわかりませんが、なんでも楽しんでやるのが大事だと思います。

今僕は自分のやりたい仕事をしています。もちろん辛い時もありますが、楽しんでやればどんな事でも乗り切れると思います。

お互いに大学生活を全力で楽しみましょう。

編集 総合企画部(中央棟2階) TEL048-946-1635 kouhou@stf.dokkyo.ac.jp

学生記者	跡部 雄太郎(総2年)	池下 奈穂ヴェレーナ(独2年)	伊藤 あす美(関3年)	遠藤 夏乃(済3年)
[五十音順]	岡田 陽依(英1年)	尾木 草輔(律2年)	柿沼 伶(交2年)	川上 徹也(環4年)
	小林 優麻(律4年)	斉藤 駿斗(律1年)	杉田 慶一郎(律3年)	鈴木 綾夏(英3年)
	高橋 弘行(済3年)	張 政(英3年)	長橋 ずず音(言2年)	初澤 汐里(独4年)
	原 友里恵(英1年)	藤岡 希(英3年)	古田 千夏(独4年)	古谷 一真(交1年)
	堀口 太陽(英3年)	村井 ひかり(独2年)	吉見 麻菜(済2年)	

